

Does Modic Change Progress With Age?

樽角, 清志

<https://hdl.handle.net/2324/1959193>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学) , 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名：樽角 清志

論 文 名：Does Modic Change Progress With Age?

(Modic Change は年齢とともに進行するのか?)

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

Modic Change とは 1988 年 Modic らによって発表された MRI における椎体終板から椎体にかけての異常信号の分類方法である。この報告後約 30 年にわたり Modic Change の臨床的な特性、腰痛との関連、適切な治療方法、発生率、自然経過など多くの報告がなされてきたが未だに解明されていない部分が多い。過去の報告では年齢に伴って Modic Change の発生率が上昇していくという報告が多く見られる。しかし、これらの報告は比較的若年層を対象としたものであり 60 歳代までの上昇を報告している。我々が日々治療対象としている患者の年齢層は大幅に上昇しているにも関わらず Modic Change における高齢者のデータは報告されていなかった。そこで実際に Modic Change の発生率が年齢とともに上昇し続けるのかを検証するために高齢患者を含んだ各年齢層における Modic Change の発生率を検証した。当院で腰椎 MRI を撮影した 585 人の患者を対象とした。MRI T1,T2 強調、矢状断面画像で評価し Modic Type1(T1 低信号 T2 高信号), Type2 (T1,T2 高信号), Type3 (T1,T2 低信号), Mixed Type (分類不能) の 4 つに分類した。Modic Change の発生率を各年齢層に基づいて比較した。対象患者の平均年齢は 65 歳で 70 歳代の患者が最も多かった。Modic Change の各年齢層における発生率は 10 歳代が 0%、20 歳代が 10%、30 歳代が 33%、40 歳代が 27%、50 歳代が 32%、60 歳代が 44%、70 歳代が 42%、80 歳代が 26% で、80 歳代の発生率は 70 歳代の発生率に比べて優位に低かった($P=0.0086$)。Modic Change の発生率はある年齢層までは上昇するが 70 歳代以降に減少する傾向にあった。これらの結果は高齢者脊椎疾患を治療する際の参考になるとと思われる。